

上信越 白毛門周遊スキー

前田(工)、長谷川(純)

【日時】 2012年3月18日(日)～20日(日)

【メンバー】 L田辺、SL中村、長谷川(純)、前田(工)

利香さん悲願の谷川変形馬蹄型周遊スキーは、今年も天候不順の為転進を迫られた。今回は宝川広河原に定着の上、ナルミズ沢左岸・右岸を滑り倒そうということになった。結果は中日の悪天で稜線までとても上がることができなかった。しかし他パーティーも縮小が多かった3月連休、この限られた条件の中では十分挑戦的な山行ができたと思う。ウツボギ沢のとても広い沢筋、真白い白毛門の稜線などに触れ、谷川周辺が一級の山岳地域だと改めて認識することができた。次回は是非、大きな谷川周回コースでリベンジしたいと考えている。



【3月18日 曇りのち雨雪】

到着が危ぶまれた純平君と前泊地にて合流。なにしろ彼は飛び石連休の月曜日を休む為にギリギリまで仕事をしていたので。気持ちよく山に行くのも色々大変です。

登山者で賑わう土合駅。入山は駅舎から線路を渡り、すぐ裏の山腹に取り付く。下から眺めた尾根は雪も少なく、傾斜も有りとても快適に登らせてくれそうには見えない。最初の目標 1180Pに登っている



ときから、やたら長い間ヘリコプターが対面のロープウェイ周辺を飛んでいる。後で確認したら16日に天神尾根直下(熊穴沢小屋近く)でスノーボーダーが雪崩にあったとのこと。そういえば前泊地で警察が来て、泊まること自体にはお咎めは全くなかったが、気をつけて下さいと言いつつ残していった。その時はなぜか盗難等の事件でもあったのかと思ったけど…。雪崩事故と前後して同じ山域に入っている事は良くあるが、毎度身につまされるところである。

1180Pからは丸山乗越も東黒沢源頭も良く見える。赤沢山から丸山まではゆるい尾根が続きトレースもあった。白毛門から丸山越えて周回しているのだろうか、他の歩きパーティーともすれ違う。快適な尾根歩きで余裕とも思われたが、しかし今回は宿泊フル装備。毎週末悪天が続き日帰りスキー山行ばかりの我々には、後から次第に疲労が効いてくる。丸山までは遠く見えたけど、やっぱり目の錯覚ではなかったなあ…。

丸山から広河原まで滑降。ゆるい傾斜だが前日は雨だったのか、ボコボコの雪面で重いザックが足に来る。しかし滑りながら宝川の出合が良く見えて、天場がだんだん近寄ってくるのが分かるのが嬉しい。広河原はとても穏やかに広いので雪崩で流されるような気はしなかったが、夜半強まるであろう風雨には気を使いテント場を決めた。落ち着いて確かめてみたら、セーブしたつもりでもしっかり2日間に十分な量のアルコールがベースに持ち込まれていたのがあった。ホッと安心。



【3月19日 雪】

雨は夜中早々に雪に変わったようだ。テントから覗くと雪は前日の足跡を埋め、尚も激しく降り続けている。とても山に行こうという雰囲気ではなかった。午後には収まっていくだろうからともかく朝はゆっくり出ようという事になった。残念だが楽しみにしていたナルミズ沢経由の朝日岳登頂は望むべくもない。しかし悪天でも遅出でも特にモチベーションは特に下がらない。だってこんな時はパウダーというご馳走があるんだもん。



プチパウ@丸山

代替案として宝川本流とウツボギ沢に挟まれた尾根を登り 1622Pを目指す。傾斜はほどほどのキツさで樹間も広く、滑るのに良さそうな尾根である。風下にあたるせいか出だしの風は強くなかったが、高度を上げ西側に巻いていくにつれて非常に強くなってきた。風が谷を渡る音が響いて、ワンテンポ遅れてから強風が来るので、耐風姿勢をとるタイミングが図りやすくて

助かる。1622P直前で視界も途切れだした為、登りはここまでとする。雪の条件が良いときの400mの滑降は一瞬で終わってしまう。昨日とは異なり快適滑降のあまりホーホー鳴く鳥（中村さん）も出現した。

まだ滑り足りない我々はテントにも入らず、もう一本行こうということになった。午後は軽めに昨日通ってきた丸山に登り返す。この天気なら昨日の悪雪もリセットされているでしょう。なかなか雪は止まないが、先程のような厳しさはすでに無くなっていた。

テントに帰ってきてからまだ余裕があったので、沢に水を取りに行った。沢の開口部は発見できたが、穴が開いているだけなので河床に降りるのはとても不可能だ。そこで補助ロープにコッヘルを吊り下げて投下することにした。何回か投げ入れてもうまくいかず、サルがバナナを取るがごとく試行錯誤した結果、ついに両側から2人でロープを張りながら降ろすとうまくいくことが分かった。ロープが役にたってなぜだか妙な満足感があった。冬山だけにやっぱりロープ出さないよね？
(工)



【3月20日 晴れ】

「このままの天気だと往路の稜線歩きかな」と半分あきらめもあったが、朝テントから顔を出すと見事な快晴。予定通りに国境稜線を超えて赤倉沢を目指す。広河原からウツボギ沢辿り白毛門の北西の尾根筋に登る。笠ヶ岳の白い稜線、さらにその奥に広がる「白い砂漠」に、来年こそは！とリベンジの誓いをたてる。



稜線に立つと、いつも間にか空一面は薄曇りになり、風も吹き出してきた。早々と滑る準備を整える。白毛門山頂から延びる赤倉沢は、湯檜曾川まで標高差850mを30分で一気に滑り降りる。まさに脱走ルート。沢の出だしは風に叩かれカリカリ雪だったが、50mほど降るとここからはご褒美のパウダーとなった。重い荷物を背負っているのも忘れて、4人それぞれ、

広い沢筋を縦横無尽に滑る。最高の一言に尽きる。



あっという間に湯檜曾川に到着する。利香さん特製の氷小豆を食べて、土合までもう一息。気合いを入れ直して湯檜曾川を下降する。(長谷川)

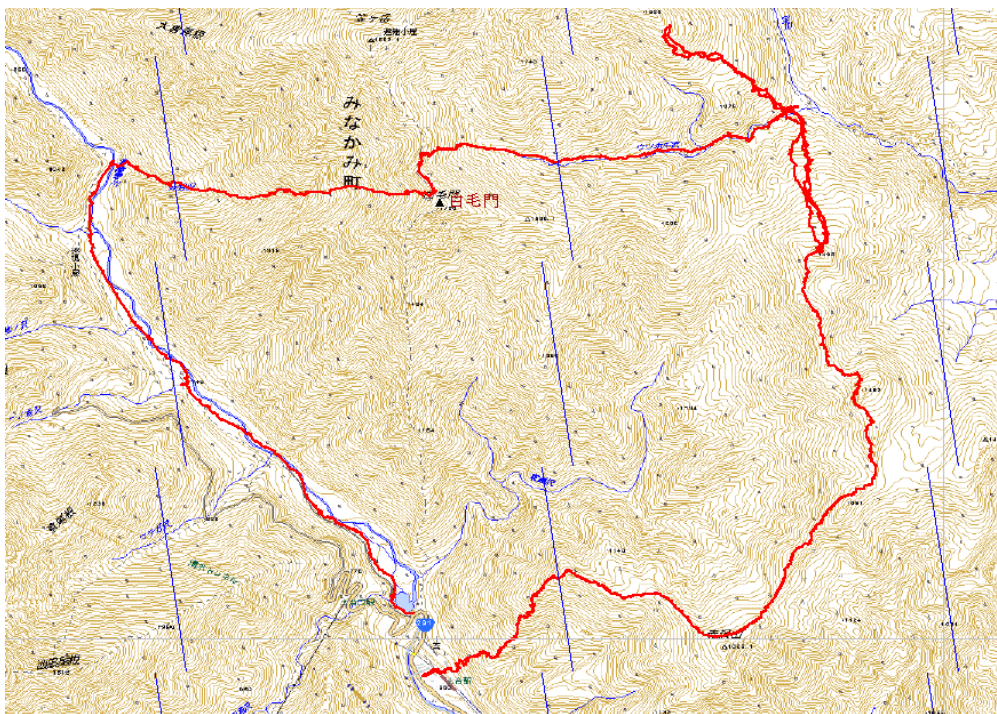
【行程】

(3/18) 土合駅(8:15)～丸山(15:00)～広河原BC(15:30)

(3/18) BC(10:00)～ウツボギ沢右俣1600m(11:30)～BC(12:15)～丸山(14:00)～BC(14:15)

(3/18) BC(7:40)～白毛門山頂下(10:30)～赤倉沢出合(11:10)～土合駅(12:45)

【地図】 水上、茂倉岳



<http://www.tomanokaze.dojin.com/>